

ひとり ひとり ひかる

きぼう

2015 4/1
第80号

発行 : かしの木の会/かしの木の里内 一宮市富田字砂原 2147
かしの木 ホームページ [http : www.kasinoki.jp/](http://www.kasinoki.jp/)



かしの木音楽会

かしの木音楽会

「かしの木音楽会」が、平成27年2月11日(祝)尾西グリーンプラザにおいて、華やかに開催されました。

今年は、尾西信用金庫の有志によるダンスパフォーマンス、音楽療法のカキツバタ、檜の木福祉会の職員有志・カトリーナと利用者さんによるバンド演奏、など盛りだくさんの内容で楽しい一日でした。

来年も計画していますので、参加くださるようよろしくお願い致します。

80号 きぼうの目次

表紙・写真・目次	1
地域コーナー①/かしの木音楽会	2
地域コーナー②/グループホーム	3
かしの木の会コーナー①/研修委員会	4
〃	5
かしの木の会コーナー②/広報委員会	6
かしの木の会コーナー③/就労して1年	7
かしの木の会コーナー④/20歳を迎えて	8
地域コーナー③/グループホームに入所して	9
掲示板/檜の木交流会	10
文芸コーナー/どんぐりのつばやき①	11
お知らせコーナー/予定など	12

地域コーナー①

かしの木音楽会を開催しました !!

平成27年2月11日(祝)の午後1時30分より、かしの木音楽会を開催いたしました。



2日前は雪がチラつく程の寒さでしたが、当日は打って変って晴れた穏やかな日となりました。

開演時間になると、3つのグループがそれぞれステージに上がり、見事なパフォーマンスを披露して下さいました。トップバッターは、一宮市を拠点に活躍されている音楽療法グループ「カキツバタ」さんです。「アナと雪の女王」や「妖怪ウォッチの曲」など人気の高い曲がチョイスされ、ステージ上から一方的に聴かせるだけでなく、音楽というメディアを通して観客と一体化し、全員参加型の演奏空間を繰り広げることができました。



2番手はロックバンド「カトリーナ」さんによるミニ・コンサートです。今回は新しい試みとして、榎の木の利用者さんも参加していただきました。



それは、演奏曲のボーカルを一緒に取っていただいたり、教室に通って身に付けたドラム演奏をその場で披露していただいたことです。思いがけないパフォーマンスに、会場は大いに湧き上がりました。



ラストは、尾西信用金庫の若手スタッフの皆さんによるダンス・パフォーマンスです。この日は、尾西信用金庫の木村理事長さんを始め関係者の皆さんが見守られる中、AKB48の「恋するフォーチュンクッキー」、「ヘビーローテーション」をバックに、楽しい振り付けのダンスを披露していただきました。

最後の方で、振り付けの解説をしながら「観客のみなさんと一緒に踊ろうコーナー」がありました。参加者全員の「踊りまくり＝盛り上がり状態」がとても印象的でした。出演者の皆様、本当にありがとうございました。

そして、なにより忙しい中、当日準備から後片付けまでお手伝いして下さいましたボランティアの皆さんにも深く御礼を申し上げます。

当日の来場者数は255人でした。今回もアンケートを取らせていただきましたところ、「音楽会は良かった。」「皆が一体になって盛り上がり良かった。」「尾西信用金庫さんのダンスが良かった。」「カキツバタさんのアナと雪の女王が良かった。」「カトリーナさんの歌と演奏が良かった。」という回答がほとんどでした。



最後に、今年の音楽会も参加された方々全員のお陰を持ちまして、つつがなく盛会の内に終わることが出来ました。略儀ながら本紙面をお借りし、心からの御礼に代えさせていただきます。

イベント委員会 高松

地域コーナー②

はなももの家・竣工

この5月よりスタートするグループホーム（共同生活援助）の名称です。女性5名＋短期入所2名のホームで、法人では15軒目になります。



はなもものは、赤・白・ピンクなど色鮮やかな花を咲かせます。また、“成長と幸福を願う”桃の節句にも用いられます。そのはなもものように、この地域で色々な願いが込められた花を咲かせていけたらと思います。

新しい生活に向けて

昨年11月から工事が始まり、設計・建設業者と外観から設備、内装などの打ち合わせを重ねてきました。建物が出来上がって

くるにつれ、いよいよだなと日々感じています。現在は、ホームへの移行に向けて、親御さんや関係事業所のスタッフと共に、準備を進めています。今まで、親元を離れて生活する経験があまり無く、どういった準備が必要か、入居までにしておいた方がよいことはあるかなどを話し合っています。1人1人のペースで利用を開始し、新しい生活に慣れていけるように進めていきます。



<H27年2月 撮影>

ピンクや明るい色を基調とした女性らしいホームになりました。完成間近です！今、ホーム全体として、スタッフの確保が大きな課題となっています。それでも、皆さんの生活を支えていくには、“人”の力が必要になります。

親御さんや関係機関と協力しながら、それぞれが思い描いている生活ができるよう支援していきたいと思います。

(GHC 小関)

かしの木の会コーナー①

学習会

研修委員会

昨年11月19日、南部公民館にて『もしものとき子どもに何を残せますか?』と題して、一宮市障害者相談支援センターゆんたくの野崎貴詞氏を講師にお迎えして、学習会を行いました。



昨年も”親としての役割”について、お話をさせていただきましたが、会員の皆様から、今年も是非のご要望から開催いたしました。参加者は、39名。

○後見人、相談支援、事業者の3つの事業が、良い緊張感を保ちながら、「本人」の地域生活を支えることが重要である

○法律〈障害者基本法改正〉

- ・全て障害者は、あらゆる分野の活動に参加する機会が確保されること
- ・全て障害者は、どこで誰と生活するかについての選択の機会が確保され、地域社会において他の人々と共生することを妨げられないこと

〈障害者虐待防止法〉

- ・国民に障害者虐待の禁止を義務付け
- ・市町村に「障害者虐待防止センター」を設置

〈障害者差別解消法〉

- ・作為による差別（差別的取扱い）を禁止し、不作為による差別（合理的配慮の不提供）を解消する

○意思決定（←意志ではなく）・・・「意思」は、漠然とした思いをも含む概念であり、どんなに障害の重い人でも、意思決定に支援が必要である。

そのためには、あたりまえの権利を保障することが重要＝権利擁護「豊かな地域生活を實現する」「人権を保障する」

○成年後見制度・・・認知症、知的障害、精神障害などによって、物事を判断する能力が十分ではない方（本人）について、本人の権利を守る援助者（成年後見人など）を選ぶことで、本人を法的に支援する制度

○特定贈与信託・・・障害者のために設けられた信託。親が信託銀行に金銭を信託し、信託銀行は生活費や医療費などのために定期的に金銭を支払う仕組み。対象は重度の障害者に限定。親が亡くなった後に、第三者や親族、後見人などが財産に手を出そうとしても出来ないというメリットがある。一定の現金がないと利用できない。

○東日本大震災時の調査から、障害があることで救えなかった命があったのではないかと・・・

野崎さんは、難しい法律や制度についても、パワーポイントを使って丁寧に説明されるので、毎回とてもわかりやすく、今回の学習会も大変勉強になりました。次ページにつづく。

質疑応答の中で、「さまざまなサービスは、とても有難いのですが、権利を主張するには、自分たち親が出来る事を努力することが大切。かしの木の会も高齢化し、活動する人も限られてきている現状。子どもたちが安心して地域で暮らせよう願っているが、親として今、何をなすべきかを教えていただきたい。」との質問がありました。それに対して、野崎さんは、「まずは、小さな集まりをして、必要なこと、伝えたいことを声に出してゆくこと。たとえ、年に1、2回でも皆で進めることが大切。私にできることはするので、いつでも力になります。」とおっしゃいました。



そこで、2月4日の定例会で、「研修委員会の活性化を考える会」を開き、「地域交流室・夢ぼけっと」にて「喫茶らちえっと」の美味しいコーヒーとケーキをいただきながら、ざっくばらんに、話し合いました。研修委員会は、毎月プレハブ希望にて、定例会を行っていますが、意見が言いやすい雰囲気、学習会や施設見学では、得るものが多いです。出席率もとても良く、この日も11人で総会資料について、先月の尾張のつどいの報

告を聞いたあと、和やかに先輩会員のお話を聞くことができました。かしの木の会の歴史をお聞きする中で、「以前の会員は親のみだった」、「フェスティバルの模擬店を保護者会ごとに行っていて、開所日でないので子どもたちは、家族と共に過ごしていた」など、今とは異なった様子を知りました。三十数年前、母子通園開所にお力を尽くして下さった方がいらしたからこそ、後輩の子どもたちが、通うことができたこと。養護学校に朝送って、そのまま授業中は別室で待機をして、トイレ介助や教室移動を行ったことなど、お子さんが小さかった頃のお話を、お聞きしました。今は、福祉サービスが充実していて、ついあたりまえのように思っていますが、これまでの歴史を知ること大切だと思います。これからも研修委員会では、年齢を超えた交わりの中で、親として何をなすべきかを、考え合いたいと思います。

☆かしの木の会の会員、親として何ができるのでしょうか・・・？

毎月の委員会活動の他にも、さまざまなイベント（フェスティバル、盆踊り、音楽会など）に積極的に参加して、かしの木のことを一人でも多くの方に知っていただきましょう。

物資販売を購入するだけでなく、カタログ作成と仕分け、広報きぼうの折り込み作業に参加する e t c.

大切なわが子の幸せのため、あなたは何ができますか・・・？

研修 伊藤容子

かしの木の会コーナー②

利用者の日常 その1

A型作業所に通所する娘の場合

我が家の長女は、「ステップ」での就労移行支援約1年半を経て浅井商会（一宮市浅井町）に就職して満3年半になります。

彼女の一日は、朝6時15分に始まります。

朝食と身支度を済ませ、7時15分に出勤です。自宅から徒歩10分弱のバス停からバスを乗り継いで通勤は、バスの本数が少ないこともあって1時間ほどかかります。駅でトイレに行っていて乗り継ぎのバスに乗り遅れたり、朝から居眠りをして(!)乗り越したりの失敗もありますが、意外と本人なりに対応できているようです。これも、東養護時代に思い切って自力通学を経験させたおかげでしょうか。

仕事は9時から16時10分まで。仕事が少ない日は早く帰れることもありますし、忙しい時は1時間ほど残業もします。消毒されたおしぼりを2つ折りにしておしぼり巻き機(?)に通すのが彼女の仕事。昼休みと10分のトイレ休憩以外は立ちっ放しの単純作業で、親の目には結構大変に見えますが、元々繰り返しの好きな娘には合っているようで「仕事はおもしろい。」とのこと。たくさん巻けると職場のみんながほめてくれるのも励みになっているようです。

職場の浅井商会さんは、娘が就職した頃は一般企業でパート扱いでしたが、24年度よりA型作業所の申請をされました。作業所になってから健康診断やレクリエーションなどの福利厚生が向上し、健康保険や厚生年金にも加入できるようになりました。連絡ノート

でサービス管理者の方との情報交換もできます。親としてはパート時代に比べ、色々な面で安心感が増したように思います。

休日は週に2日。家でパソコンや手芸をして過ごす事が多いですが、「きーぷ」さんと買い物に出かけたり、一人でカラオケに行ったりと、自分で稼いだお金を自由に使える時間もとても楽しんでいるようです。



娘が小学校低学年のころ参加した講演会で、同じ自閉症のお子さんを持つお母さんが言われた「誰かに迷惑かけてもいいじゃない！その分どこかで自分がお返しすれば。」という言葉に目から鱗が落ちたような気がしました。

それ以来、周りに迷惑をかけることを必要以上に恐れず、少しハードルが高いと思われる経験も少しずつさせるようになりました。決して社会適応能力の高くない娘が、自分に合った仕事と趣味を持つことができ、安定した日常生活を送れているのは、周囲の人の支えはもちろんですが、あの一言で親の意識が少し変わったおかげもあるかもしれません。

これからも色々な人の力を借りながら、そして少しずつそのお返しをしながら、彼女らしく地域で暮らしていけたらと願っています。

広報・浅野

かしの木の会コーナー③

就労1年目を振り返って

我が家の末っ子、健太が昨年3月から檜の木園を利用し始めてもう1年になります。

今まで毎日通う所と言えば、「学校」という文字が付く場所ばかりだった息子は、「就労」というイメージを持たぬまま、檜の木園に通い始めました。

これまで利用したことのある放課後児童デイや日中一時のように、ある期間だけ利用するものと誤解していた息子は、4月当初「もしかしたら、もう少ししたら檜の木園に通えなくなるのかも。学校も卒業したし、これから僕はどうなるのだろう。」と思っていたようで不安定になったこともありました。



そんな健太でしたが、「檜の木園」シールを作り、健太用のカレンダーと一緒にシールを貼っていつ通うのか分かり易くしたところ、毎日嬉しそうに通っています。

思えば、この1年は健太だけでなく、2人の姉の出産もあり、大きく環境が変わりました。

「果たして健太は環境の変化を受け入れるのだろうか」と心配する日々を過ごし、少しでも影響を少なくして彼の負担を減らそうと考えておりました。

そんな中、檜の木園の職員の方々に健太の様子を教えていただき、また影響を減らすにはどうすればいいのか共に考えていただきました。

健太が不安定になった時、檜の木園の職員の方々が共に原因や対策を考えていただくことで、今までより早く健太が落ち着きを取り戻していたように感じます。

親の心配をよそに、健太は檜の木園で伸び伸びと自分らしさを発揮し、「どの職員さんなら自分を分かってくれているか、どの職員さんなら優しいのか」しっかり把握して楽しく日々を過ごしているようです。

職員の方々との接点も多いからか、檜の木園に通い出して言葉も増えて来ました。

まずは、この1年檜の木園に慣れることを目標と考えていましたが、健太の様子を見ているともう次の目標を考えても良さそうです。

健太の様子を見ながら、一步一步彼なりの自立に向けて、ショートステイなど一つ一つ経験させていきたいと思います。



園・保護者 小杉

かしの木の会コーナー④

我が家の亜希子

20歳を迎えて

〈7時30分〉『行ってきます。』平日の朝出発
 〈8時55分〉『着きました。』のメール
 〈16時30分〉『31分発のバスに乗りました。』
 〈17時00分〉玄関のチャイム♪♪が鳴ります

彼女は今、高岳（名古屋市東区）の就労移行事業所に通所しています。昔を思うと今の姿は想像できませんでした。

1才半検診時、一人立ち出来ず母子訓練を紹介されてから学びの場を転々となりました。

養護学校では、手助けされる立場から、人の手助けすることを学び、多くの友と学び、とてもおおらかな、さっぱりとした性格となりました。今、通所する事業所は高1の時から決めていたところです。自転車通学だった娘が心配で私も定期券を購入し通所しましたが、2週間で一人で出かけて行きました。通所1年目に大雨で電車が停まり帰れなくなりました。『国府宮まで、むかえにきて。』と連絡後、つながらなくなりました。駅に着くと傘をさして、じっと待っていました。お迎えまで3時間、パニックにならず待っていたのを見て彼女の力強さを感じました。2年間で様々な事を体験し想像以上に成長した彼女がいます。これからの人生に様々な困難があっても本人のもつバイタリティーできっと乗り越えていけると信じています。



（ 恩師と一緒に ）



〈成人の誓い〉 佐藤亜希子

私は、今年度20歳になりました。

お母さん、今まで私を育ててくれてありがとう。

私の買い物に付き合ってくれてありがとう。

お給料をもらったら、USJや、好きなアーティストのLIVEを見に行ったり友達と色んな場所に行ってみたいです。

私は健康を維持できる大人になりたいです。

仕事を休まないよう一所けんめいがんばりたいです。

これからもよろしく願います。

これは、成人を祝う会でもらった手紙です。

3月から一宮市内のA型事業所に通所しています。駅でみかけたら声をかけてやってください。何回目で声を聞けるか楽しみにしていてくださいね。とても、おしゃべりな亜希子に出会えますよ。

保護者 佐藤悦子

地域コーナー③



グループホーム・オリーブの家に 入所して

和希が念願のグループホーム（GH）へH26年4月から入居することが出来ました。多くの皆さんにサポートされ、入居者として選出して頂いたことを、心から感謝しております。

最初の3週間は夕食・入浴後帰宅する生活でしたが、4週間目からは1日宿泊し、2日目に帰宅、2ヶ月目からは毎日宿泊し、週末に帰宅するパターンになりました。

忘れもしませんが、2日宿泊後最初の帰宅日でしたが、玄関に入るなり私に抱き付いて涙ポロポロ大泣きしました。自宅へ帰った嬉しさだったのでしょうか。初めて一人で外泊をしたことで、ホームシックにかかっていたのではなかったかと思えます。

こんなことでこれから無事に一人で生活していけるのかと心配しましたが、2回目の帰宅時にはいつもと全然変わらぬ態度で帰って来ました。何で急にそんなに変わったのかとびっくりしました。

ところが今度は、母親代わりの祖母が、俗にいう空の巣症候群になり、何も手が付かない状態になりました。どうもこれは長年毎日世話をしてきた孫が居なくなって、何もやってやる事が無くなり精神的にがっかりしてしまった事が、大きな原因であると気がつきました。夕方になると、今頃どんな事をして時間をつぶしているのかとか、食事は十分取っているのか、同居の皆さんに迷惑をかけていないか等が家庭内の会話の主体でした。

そんな心配事も、グループホームのスタッフの皆さんとお会いして、生活ぶりをお聞きし全然心配なく普段通りの生活が出来ていることが、次第に判って来るにつれ、祖母の空の巣症候群の病も徐々に解消していきました。決定打は、かしの木運動会の日でした。前日はグループホームに泊まり、翌朝榿の木園の皆さんと一緒に会場へ来ました。その姿を私ども家族が見て、驚きました。それは 和希がグループホー

ムのスタッフHさんとUさんに手を取って頂き、見たことも無いような笑顔で楽しそうに、グラウンドを意気揚々と歩いているではありませんか。私達家族が座っているテントの前を通り過ぎる際に、家族に何の合図もせず、知らん顔をして自分たちの決められたテントの座席へ行ったのです。

この一連の動作を見て、ああこれで和希のすべての生活が、榿の木のスタッフにバトンタッチされるようになったのだなと安心すると同時に親の役目が少し終わったのかと、複雑な気持ちになりました。



グループホームに慣れるのに、少なくとも本人家族とも1~2年はかかるのではと聞いていたのが、想定外のわずか3か月足らずで、新しい生活の軌道に乗ることが出来たと喜んでおります。

これもひとえに、榿の木福祉会のスタッフのみなさんのおかげです。これからも変わらぬご指導を頂きたいと心よりお願い致します。

入居者・保護者 松田

《 参考 》

グループホーム・オリーブの家 建設計画と入居までの経緯

- H24-3-2 かしの木の会 GHを考えよう全体会
- 3-19 新築希望の人14名で打ち合わせ
- 4-25 5-26 6-19 保護者打ち合わせ
- 7-下旬 入居メンバー決定
- 8-18 9-22 12-22 地元自治会への説明会
- 9-中旬 設計着工
- 9-7 既入居者4名の保護者と懇談
- 10-20 入居予定者と福祉会との打合わせ
- H25-2-21 設計打ち合わせ
- 5-11 土地購入契約
- 8-1 補助金支給決定
- 8-26 設計完了 9-10 細部仕様説明会
- 10-25 地鎮祭
- H26-1-30 GH打ち合わせ（持ち込む品物など）
- 3-19 同上（利用予定表の説明等）
- 3-28 竣工式
- 4-1 備品搬入 日帰り入居開始
- 4-22 宿泊 2日/週 開始
- 5-1 連泊 開始

掲示板

檜の木交流会

100人を超えるスーツを纏った男女が、尾西グリーンプラザ多目的ホールを埋め尽くす。片手にグラスを持ち、仲睦まじく語り合う若者。料理に舌鼓をうつご婦人。年配の方を囲み、その方の話しに耳を傾ける若者たち。投影されたDVDを食い入るように見つめる紳士。いろいろな方々が、一堂に会す。目的は、語り合うこと、教え合うこと、学びとること……。テーマは、地域福祉について。

平成27年1月24日(土)、午後6時。雪が舞いそうな寒空であっても、「檜の木交流会」の会場は、今から始まる交流会への期待に、熱気が伝わってくるようであった。料理が並べられて、マイクスタンドにスイッチが入り、平成26年度「檜の木交流会」が、滑舌のよい女性のアナウンスにより、始まった。理事長は挨拶で、この場に集まって頂いたお礼と、日頃の地域福祉貢献に対しての感謝を言葉にした。市議会からこの尾西地区の代表議員が出席され、日頃の福祉活動への感謝と、職員に対してのねぎらいの言葉をいただいた。他の大勢の来賓の紹介が終わって、本来参加を予定されていた衆議院議員の急なご欠席により、祝電披露をさせていただいた。

厳かな開会のセレモニーのあと、いよいよ宴の開始である。昨今の情勢から、アルコールは控えて、ソフトドリンクとノンアルコールビール。それでも、会場の真ん中に盛られたビュッフェスタイルの料理が華をそえて、会場にはあちらこちらで歓談の輪ができていた。日頃、顔は合わせるものの、会話をしたことがなくおしゃべりをしたい職員、保護者代表の方と語り合いたい支援員、行政の方と情報交換をしたい役員、法人の役員さんと交流したい管理者、いろいろな思いをもった方々が、地域福祉というテーマで交流が持たれた。

多くの参加者は、福祉会の職員である。日頃の活動を、行政や法人役員からねぎらわれ、明日の活力を得る。他法人の職員から話を聞き、情報を得るとともに学習ができる。保護者代表から教えられ、今後の支援に活かす。法人内部の職員と語り合い、共感とともに癒される。これこそが『交流会』の目的である。

会は、DVDによる、檜の木事業所の事業報告と発表を経て、盛況のうちに幕を閉じた。

この会場をあとにするものは、皆が満足げな表情で帰路に着いた。十分に楽しめた、新しい出会いがあった、会話を楽しめた、知らなかった情報を得た、料理を満喫した……。その反面、まだ話足りない。あの人と会話できなかった。あいさつだけだった……。というさびしい思いで帰られた方もあつただろう。そういう方は、来年のおたのしみ。



平成27年が始まりました。まだまだ安定しない新制度の中、地域福祉はこの場で足踏みしてとどまっては行かない。そこに、サービスを待つ利用者がみえるから……。『交流会』は、そういう方々に、より良いサービスを提供するという本来の使命を、改めて確認する場でもあった。

只井

文芸コーナー

どんぐりの つぶやき その1

「どんぐりの会」のはじまり



20年前のことです。私の息子は14歳、一宮養護学校に通っていました。同じ学校の親御さんとは交流があり、親の活動も始めていました。かしの木の会の前身である《この子らの幸せを考える親の会》の存在は知っていましたが、施設利用の保護者が中心の会であり、尾西地域でのしょうがいのある在学を抱える親の集まりが無く残念に思っていました。

当時の檜の木作業所施設長(現檜の木福祉会本部管理者 橋本昭一氏)に相談者になっていただき、尾西地域のしょうがい児を抱える親の集まり《どんぐりの会》を5名でスタートさせたのは平成6年のことでした。

将来的に地元で子どもとともに生きていきたい!と思っていましたので、そのために何をしたらよいか?考えました。子どもたちが楽しめる人形劇、ハイキング、クリスマス会などはもちろんのこと、将来に向けての資金活動で尾西まつりや福祉フェスティバルにバザーで参加させていただいたりしました。

また地域の皆さんにしょうがい者への理解をいただくために、どんぐりだよりを発行したり、『どんぐりのつぶやき』と題して、親の想いを綴った冊子を福祉フェスティバルで配布させていただいたりもしました。尾西社協様には本当にお世話になっております。

おかげさまで、『どんぐりのつぶやき』も20冊目を発行することができました。私は、9冊目まで関わらせていただき、若いお母さん方が引き継いでくださっています。今回、かしの木の会広報誌きぼうにこのど

んぐりのつぶやきを掲載させていただけるとのこと。大変光栄に思っております。しょうがいをもった子を抱えた親達が、日頃どんなことで悩み日々暮らしているのか...?お読みいただければ、幸いです。

(前どんぐりの会代表 小塚峰子)

我が家の娘は、次の誕生日で20歳になります。そして、この1月に成人式を迎えます。娘が生まれてから、もう20年も経ったのかと思うと月日の流れるのがなんとはいのかと、ただ驚くばかりです。

出産予定日より少し早く、標準よりも少し小さく生まれた娘でしたが愛らしい赤ちゃんでした。その子に障がいがあると分かった時の衝撃はとても大きなものでした。子供の将来を思うと暗い気持ちになったり、自分が不幸な人間だと嘆いたりしていた覚えがあります。でも、健全な子供よりもゆっくと成長していく娘や姉弟たちの育児に追われているうちに、あっという間に20年が過ぎていました。その時々にはいろいろな問題もありましたが、済んでしまえばちっぽけな悩みだったと思えるようにもなりました。まだまだちょっとした手助けの必要な娘ですが、それを苦労だと思いません。娘の笑顔と家族の支えがあったから、ここまでこられたのだと思います。

障がいのために幼く見える娘ですが、花も恥らう20歳。それなりに流行やおしゃれに興味津々です。成人式の振り袖も、借りようか、それとも洋装で済まそうか、散々どうしようか悩みましたが、可愛いもの綺麗なものが大好きで、ちょっとナルシストな娘のために一緒に呉服屋さんに行って眺めました。目をキラキラさせて本人が選んだ可愛い花柄です。あとは当日にお姫様に変身するのを、とても楽しみにしています。

20歳おめでとう。これからの生活も、明るく楽しいものでありますように。

(社会人2年生)

※2014年10月発行時の本文のまま掲載

※「どんぐりの会」は、現在あつとホーム委員会に所属して活動しています。

お知らせコーナー

【 行事予定 4月~6月 】

かしの木の会 総会

日時・・・4月11日(土) 10:00~

場所・・・一宮市役所

尾西庁舎

生涯学習センター

6F 大ホール



かしの木運動会

日時・・・5月31日(日) 10:00~

場所・・・富田山グランド

かしの木の会への新規加入・更新

よろしくお願いたします

《 振込先 》

郵便振替 00840-8-20353

加入者名 かしの木の会

年会費 活動会員 一口 2,000円

購読会員 一口 1,000円

問い合わせ先 かしの木の会事務局

TEL 0586-63-2111

FAX 0586-61-1200



編集後記



広報きぼうは、平成7年7月創刊以来80号の節目を迎える事ができました。これもひとえに、かしの木の会の皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。

本紙では、これから仲間の日々の様子を中心に伝えていきますので、皆さんの気軽なご寄稿をよろしくお願いたします。

広報委員会

地域の人々に支えられ、地域の人々と共に

かしの木の会 事務局	〒494-0018 愛知県一宮市富田字砂原 2147 番地	Tel 0586-63-2111
	かしの木の里内	Fax 0586-61-1200
櫻の木福祉会 (法人代表)	一宮市富田字砂原 2147 番地	Tel/Fax 0586-63-2111 / 61-1200
☆櫻の木作業所・どんぐり	一宮市富田字漆畑 16 番地	Tel/Fax 0586-61-6055 / 61-6514
☆櫻の木園	一宮市富田字若宮 17 番地	Tel/Fax 0586-62-8202 / 62-8253
☆ステップ	一宮市明地字上平 35 番地の 1	Tel/Fax 0586-68-1207 / 68-1241
☆かしの木の里	一宮市富田字砂原 2147 番地	Tel/Fax 0586-63-3270 / 61-1200
☆かしの木サポートプラザ	一宮市北丹町 2 番地	Tel/Fax 0586-28-8288 / 28-8188
☆らちえっと	一宮市富田字砂原 2147 番地	Tel/Fax 0586-62-6117 / 61-1200
☆喫茶・らちえっと	一宮市富田字砂原 2147 番地	Tel/Fax 0586-62-6135 / 61-1200
☆カフェ ふらっと	一宮市萩原町串作字女郎花 1617 番地 8	Tel 0586-67-5070
☆園芸センター さいた	一宮市西五城字山方 21-1	Tel/Fax 0586-62-0039
☆わがんせ	一宮市祐久字九百坪 204	Tel/Fax 0586-68-2700 / 68-1250
☆相談支援 ゆんたく	一宮市大和町馬引字引郷裏 42	Tel/Fax 0586-64-5882 / 64-5852
☆就業・生活支援 すろーぷ	同上	Tel/Fax 0586-85-8619 / 64-5852
☆療育サポートプラザ チャイブ	一宮市北丹町 2 番地	Tel/Fax 0586-28-8288 / 28-8188
☆居宅介護事業所 きーぷ	一宮市富田字砂原 2147 番地	Tel/Fax 0586-63-2122 / 61-1200
☆G. H. C はぎわら	一宮市萩原町串作字女郎花 1616 番地 3	Tel 0586-67-1787
☆G. H. C びさい	一宮市祐久字九百坪 97	Tel 0586-68-6505
☆G. H. C やまと	一宮市萩原町串作字女郎花 1616 番地 3	Tel 0586-67-1787